

平成26年三重県議会定例会 予算決算常任委員会

提出資料

	頁数
1 病院事業庁長等マネジメントシート	
・病院事業庁長マネジメントシート（平成25・26年度）	2
・こころの医療センター院長マネジメントシート（平成25・26年度）	6
・一志病院長マネジメントシート（平成25・26年度）	10

平成26年10月1日
病院事業庁

病院事業庁長及び各病院長マネジメントシートについて

病院事業庁では、全職員が一丸となって業務改善に取り組むためのマネジメントシステムとして、平成14年度から「BSC（バランス・スコアカード）」の考え方に基づくマネジメントを導入しており、病院事業庁長や病院長などが1年間の運営方針とこれに基づく主な取組を1枚のシート（マネジメントシート）にまとめて、県立病院の運営にかかる進捗管理を行っています。

BSC（バランス・スコアカード）とは

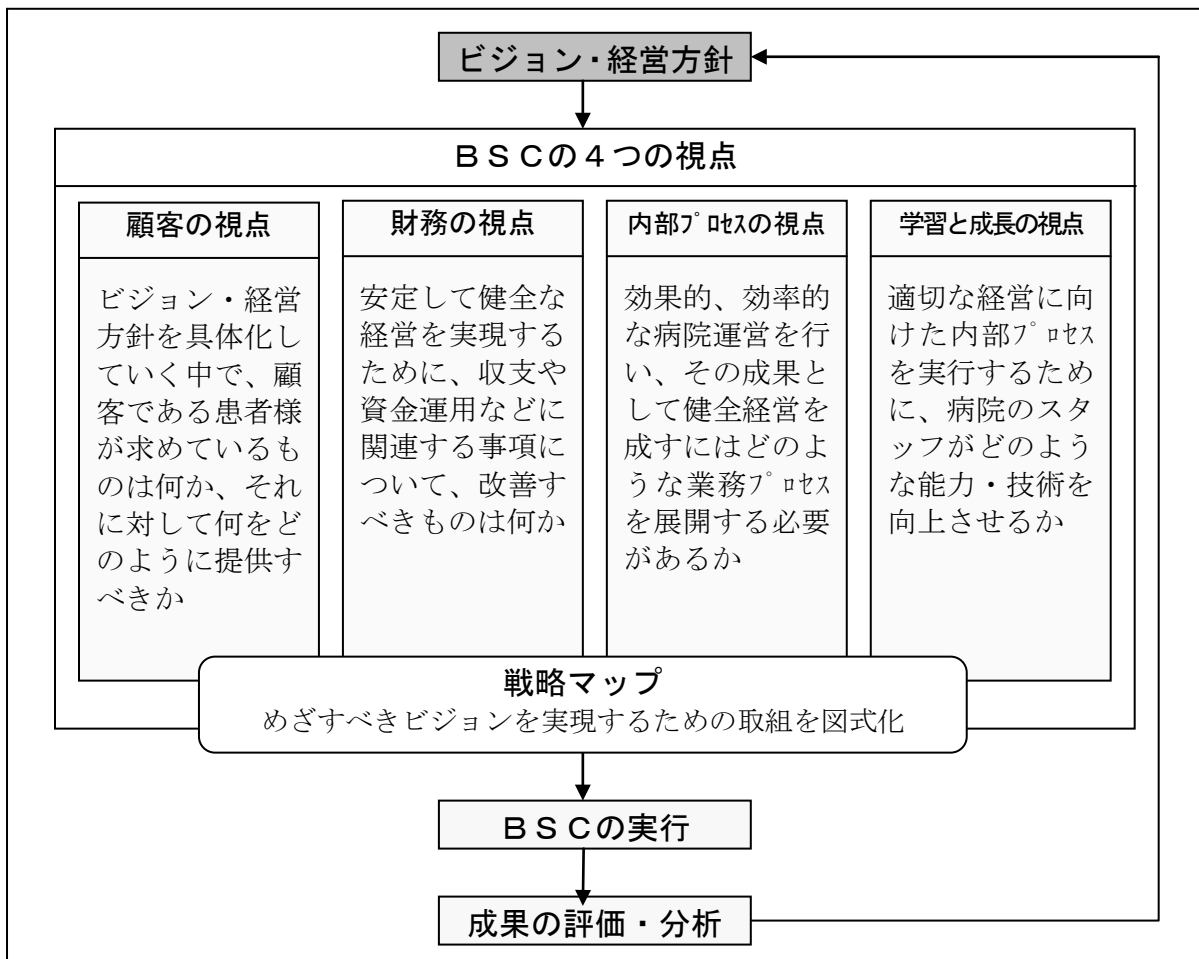
マネジメントシートの基本となっている「BSC」は、戦略を具体化し、これを実行するための経営管理の考え方と仕組みです。

BSCに基づく病院事業庁マネジメントシートの構成

病院事業庁及び各県立病院は、マネジメントシートを作成し、「ビジョン」を掲げるとともに、そのビジョンを達成するための「経営方針」を策定します。

さらに、この「ビジョン」を達成するための戦略目標や業績評価指標をBSCの考え方に基づき、4つの視点で分類しています。

また、経営戦略の考え方を図式化、可視化することによって、職員間のコミュニケーション・ツールとして活用しています。



病院名	三重県病院事業庁					
ビジョン	県立病院として良質な医療を安定的・継続的に提供することで、医療の面から県民と地域の安全・安心を支援します。					
経営方針	県立病院としての役割や求められるニーズに応じた医療を提供するとともに、病院の健全経営を進めます。また、医師思いを共有し、共に実践する組織を目指します。					
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	H24 実績値	H25 目標値
顧客の 視点	<p style="text-align: center;">安定的、継続的な医療の提供</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;">地域や県民ニーズに応じた医療の提供</div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;">良質で安全・安心な医療の提供</div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;">患者満足度の高い医療の提供</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ●精神科専門医療の提供 ●家庭医療の実践 ●地域に必要な医療体制の整備 	安定的・継続的な医療の提供	患者満足度の向上	患者満足度	73.1%	80.0%
			県立病院の役割・機能の提供	精神科医療に係る訪問看護件数 家庭医療等外来患者数	2,823件 105人/日	3,750件 105人/日
			救急医療の充実	救急患者受入数	1,238人/年	1,250人/年
			地域医療支援機能の充実	紹介患者数	1,783人/年	1,850人/年
			医療事故の防止	医療過誤数	0件/年	0件/年
			志摩地域における医療提供体制の整備	志摩病院における入院・外来・救急患者数	206.9人/日 283.8人/日 3,935人/年	218.5人/日 272.6人/日 4,015人/年
財務の 視点	県立病院の健全経営	県立病院の健全経営	経常収支均衡 資金収支均衡	経常収支比率	101.2%	100.1%
			職員給与と比率の適正化	職員給与と費対医療収益率	94.4%	93.7%
			病床利用率の向上	病床利用率	80.2%	81.5%
内部プロセスの 視点	<p style="text-align: center;">医師・看護師など医療スタッフの確保・定着</p> <p style="text-align: center;">病院機能の充実、業務改善、革新</p> <p style="text-align: center;">危機管理の推進とコンプライアンスの確立</p>	医療スタッフの確保	人材の確保・定着	医師充足率	75.9%	80.0%
				看護師充足率	101.8%	100.0%
			研修医の受入	後期研修医受入人数	7人	4人
			看護師等実習生の受入	看護実習生等受入人数	2,479人/年	2,380人/年
		業務改善の推進	改善活動の定着	業務改善取組テーマ数	—	3件
		危機管理の推進とコンプライアンスの確立	災害医療体制の構築	災害時の医療支援訓練実施回数	2回/年	2回/年
			リスクマネジメントの確立実践	医療安全委員会の開催回数	24回	24回
			コンプライアンスの確立実践	研修会等の実施	—	3回
		指定管理者制度導入後の進捗管理	指定管理者による診療体制の充実	管理運営協議会の開催	2回	2回
学習と成長の 視点	<p style="text-align: center;">風とおしの良い職場づくり</p> <p style="text-align: center;">チーム力を最大にするコミュニケーションの向上</p> <p style="text-align: center;">一人ひとりの職員の専門能力の向上</p>	風とおしの良い職場づくり	職員満足度の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的回答割合	63.5%	—
			コミュニケーションの向上	庁長フリートークの開催	—	3回
		一人ひとりの職員の力を伸ばす専門能力の向上	専門能力の向上(スキルアップ)	職員アンケート「プロとして成長しているか」の設問での肯定的回答割合	57.3%	—
			職員の危機管理意識の向上	医療安全研修等研修参加率	87.7%	80.0%

また、医療従事者にとって魅力のある病院づくりを進めます。

・看護師等の人材確保・定着を図るとともに、病院機能の充実、業務改善等に取り組みます。さらに、風とおしの良い職場、

H25実績	アクションプラン	業績評価	次年度への取組
71.3%	・患者様アンケートの分析、改善活動 ・医療機関、県民等を対象とした研究会、講演会、セミナー、病院祭等地域医療の水準向上、開かれた病院運営等の積極的な実施	・患者様アンケートについては、目標を達成することができず、また、前年度実績を下回る結果となった。(対前年度比△1.8)	・患者満足度の向上を図るため、患者様アンケートの分析及びそれに基づく改善活動を進めるとともに、アンケートの実施方法等についても、検討していく必要がある。
3,751件 105.4人/日	・こころの医療センターにおける病院機能の再編による外来機能等の充実や一志病院における家庭医を中心とした地域医療の取組実践等	・こころの医療センターについては、外来棟の整備により診療室・相談室を拡充し、また、訪問看護件数が大幅に増加(対前年度比133%)し、目標を達成することができた。一志病院については、予防医療などを含む全人的な医療サービスの安定的な提供に取り組み、目標を達成することができた。	・こころの医療センターについては、訪問看護等のアウトリーチサービスや、作業療法、デイケアといった日中活動支援に対するニーズに対応するための体制整備等を引き続き進めていく必要がある。一志病院については、引き続き、家庭医を中心とした、全人的な医療サービスの安定的な提供に努める必要があります。
1,286人/年	・救急医療の提供体制の充実	・こころの医療センター、一志病院ともに、救急医療体制を維持し、目標を達成することができた。	・引き続き、救急医療体制を維持し、消防機関との連携強化に取り組む必要がある。
1,716人/年	・病病、病診連携等地域連携の推進 ・地域の医療機関や大学、関係機関等との連携・協力関係の強化	・紹介患者数については、目標を達成することができず、また、前年度実績を下回る結果となった。(対前年度比96%)	・引き続き、医療機関を訪問するなど、連携・協力関係の強化に取り組む必要がある。
0件/年	・事故防止のための取組強化		
206.0人/日 301.9人/日 4,568人/年	・指定管理者による柔軟かつ迅速な運営のもと、診療体制の回復を図るとともに、地域のニーズに応じた医療を提供	・入院患者数については、目標を達成できなかったものの、外来・救急患者数については、大幅に増加し、目標を達成することができた。	・引き続き、指定管理者と連携して、稼働病床数の増加、救急医療体制の拡充など、診療体制の回復・充実を図っていく必要がある。
100.7%	・年度計画(こころ、一志)の進捗管理	・こころの医療センターにおいて、診療体制の一時的な縮小から収益が大きく減少したものの、こころ医療センター、一志病院ともに、経常黒字となり、目標を達成することができた。	・引き続き、病院事業庁経営会議等を通じて、各病院の経営状況や現状の取組等の情報共有を図り、また、進捗管理を行って行く必要がある。
94.9%	・2病院の医業収支比率の改善		
84.1%			
84.8%	・医師確保(県医療対策局との連携、大学等への医師派遣要請、公募等) ・勤務医にとって魅力や働きがいのある職場環境づくり(医師の研修環境の充実、学会等への参加の柔軟化や良好な住環境の確保等)	・三重大学等への医師派遣の要請を継続的に行うなど、医師の確保・定着に取り組み、目標を達成することができた。	・引き続き、三重大学等へ医師派遣の要請を行っていくとともに、合同就職説明会や広報媒体の活用など、医師確保のための新たな方策を検討していく必要がある。
104.8%	・看護師の確保・定着のための修学資金制度の周知・活用、看護実習や新人看護師への技術支援体制の充実等	・大学や専門学校等を積極的に訪問したほか、合同就職説明会への参加するなど、看護師の確保・定着に取り組み、目標を達成することができた。	・引き続き、大学や専門学校への積極的な訪問や合同就職説明会への参加するなど、看護師の確保・定着に向けた取組を進めていく必要がある。
7人	・後期研修医の受入体制の確立		
2,093人/年	・看護学生を対象とした看護実習の充実 ・研修指導医、看護実習指導者等の育成	・こころの医療センターにおいて、1病棟を休棟した影響により、目標を達成することができず、また、前年度実績を下回る結果となった。(対前年度比84%)	・養成機関等からの依頼に応じて、積極的に受入れる必要がある。
3件	・物品管理、未収金対策、診療報酬対策の3つをテーマに掲げ、業務改善活動の定着・推進		
2回/年	・医療事故や自然災害などを想定した図上訓練の実施等 ・災害支援体制の確立(院内備蓄の整備・充実)	・各病院とも図上訓練等を2回実施し、目標を達成することができた。また、一志病院における業務継続計画を策定することができた。	・引き続き、大規模災害等を想定した図上訓練などを実施する必要がある。
24回	・医療安全対策・感染対策の充実、マニュアルの適切な運用・不測の見直し・検討 ・個人情報管理等安全確保のための組織の充実		
3回	・コンプライアンスの確立に向けた取組の実施等		
2回	・指定管理者制度導入後の連携・調整に係る体制づくり	・志摩病院管理運営協議会を開催し、診療体制の回復・充実に向けた意見交換を行い、対応策について実施を求めてきた。	・診療体制のさらなる回復を図っていく必要があるため、引き続き指定管理者に対して適切な指導・監督を行うとともに、志摩地域の医療体制の充実に向けて連携して取組を進める必要がある。
—	・「明るく(A)、楽しく(T)、前向きに(M)、そして自身の健康と家族を大切に」をモットーに明るく風通しのよい職場づくりの推進		・引き続き、職員が働きやすい職場環境づくりに向けた取組を進める必要がある。
3回	・職員間のコミュニケーションを重視して思いを伝えあい、共有し、共に実践する組織づくり	・フリートークの開催数について、目標を達成することができた。各病院職員が参加しやすいよう、訪問日を2日ずつとした。	・引き続き、各病院職員が参加しやすいフリートークを実施する必要がある。
—	・研究・研修環境の整備・充実、研究発表の推進(専門分野での資格取得のための支援、研修体系の整備、研修機会の確保と活かせる環境の整備、研究研修費の確保、等)		・引き続き、職員の専門性を向上し、維持していくため、職員の意識を高めながら、有効な研修の機会を拡充していく必要がある。
87.2%	・医療安全研修会等の開催	・研修参加率は、各病院とも、80%以上となり目標を達成することができた。	

病院名	三重県病院事業庁			
ビジョン	県立病院として良質な医療を安定的・継続的に提供することで、医療の面から県民と地域の安全・安心を支			
経営方針	県立病院としての役割や求められるニーズに応じた医療を提供するとともに、病院の健全経営を進めます。さらに、風とおしの良い職場、思いを共有し、共に実践する組織を目指します。			
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標
顧客の視点	<p style="text-align: center;">安定的、継続的な医療の提供</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;">地域や県民ニーズに応じた医療の提供</div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;">良質で安全・安心な医療の提供</div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;">患者満足度の高い医療の提供</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ●精神科専門医療の提供 ●家庭医療の実践 ●地域に必要な医療体制の整備 	安定的・継続的な医療の提供	患者満足度の向上 県立病院の役割・機能の提供 救急医療の充実 地域医療支援機能の充実 医療事故の防止 志摩地域における医療提供体制の整備	患者満足度 精神科医療に係る訪問看護件数 家庭医療等外来患者数 救急患者受入数 紹介患者数 医療過誤数 志摩病院における入院・外来・救急患者数
財務の視点	<p>県立病院の健全経営</p>	県立病院の健全経営	経常収支均衡 資金収支均衡 職員給与比率の適正化 病床利用率の向上	経常収支比率 職員給与費対医業収益率 病床利用率
内部プロセスの視点	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">医師・看護師など医療スタッフの確保・定着</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">病院機能の充実、業務改善、革新</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">危機管理の推進とコンプライアンスの確立</p> </div> </div>	医療スタッフの確保 業務改善の推進 危機管理の推進とコンプライアンスの確立 指定管理者制度導入後の進捗管理	人材の確保・定着 研修医の受入 看護師等実習生の受入 改善活動の定着 災害医療体制の構築 リスクマネジメントの確立実践 コンプライアンスの確立実践	医師充足率 看護師充足率 後期研修医受入人数 看護実習生等受入人数 業務改善取組テーマ数 災害時の医療支援訓練実施回数 医療安全委員会の開催回数 研修会等の実施
学習と成長の視点	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">風とおしの良い職場づくり</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">チーム力を最大にするコミュニケーションの向上</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">一人ひとりの職員の専門能力の向上</p> </div> </div>	風とおしの良い職場づくり 一人ひとりの職員の力を伸ばす専門能力の向上	職員満足度の向上 コミュニケーションの向上 専門能力の向上(スキルアップ) 職員の危機管理意識の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的回答割合 庁長フリートークの開催 職員アンケート「プロとして成長しているか」の設問での肯定的回答割合 医療安全研修等研修参加率

援します。 また、医療従事者にとって魅力のある病院づくりを進めます。

また、医師・看護師等の人材確保・定着を図るとともに、病院機能の充実、業務改善等に取り組みま

H24 実績値	H25 実績値	H26 目標値	アクションプラン
73.1%	71.3%	83.5%	・患者アンケートの分析、改善活動 ・医療機関、県民等を対象とした研究会、講演会、セミナー、病院祭等地域医療の水準向上、開かれた病院運営等の積極的な実施
2,823件 105人/日	3,751件 105.4人/日	4,550件 109人/日	・こころの医療センターにおける病院機能の再編による外来機能等の充実や一志病院における家庭医を中心とした地域医療の取組実践等
1,238人/年	1,286人/年	1,220人/年	・救急医療の提供体制の充実
1,783人 /年	1,716人 /年	1,747人 /年	・病病、病診連携等地域連携の推進 ・地域の医療機関や大学、関係機関等との連携・協力関係の強化
0件/年	0件/年	0件/年	・事故防止のための取組強化
206.9人/日 283.8人/日 3,935人/年	206.0人/日 301.9人/日 4,568人/年	220.0人/日 312.4人/日 4,745人/年	・指定管理者による柔軟かつ迅速な運営のもと、診療体制の回復を図るとともに、地域のニーズに応じた医療を提供
101.2%	100.7%	104.4%	・年度計画(こころ、一志)の進捗管理 ・2病院の医業収支比率の改善
94.4%	94.9%	89.4%	
80.2%	84.1%	88.8%	
75.9%	84.8%	90.0%	・医師確保(県医療対策局との連携、大学等への医師派遣要請、公募等) ・勤務医にとって魅力や働きがいのある職場環境づくり(医師の研修環境の充実、学会等への参加の柔軟化や良好な住環境の確保等)
101.8%	104.8%	100.0%	・看護師の確保・定着のための修学資金制度の周知・活用、看護実習や新人看護師への技術支援体制の充実等
7人	7人	4人	・後期研修医の受入体制の確立
2,479人 /年	2,093人 /年	2,220人 /年	・看護学生を対象とした看護実習の充実 ・研修指導医、看護実習指導者等の育成
—	3件	2件	・未収金対策、診療報酬対策の2つをテーマに掲げ、業務改善活動の定着・推進
2回/年	2回/年	2回/年	・医療事故や自然災害などを想定した図上訓練の実施等 ・災害支援体制の確立(院内備蓄の整備・充実)
24回	24回	24回	・医療安全対策・感染対策の充実、マニュアルの適切な運用・不断の見直し・検討 ・個人情報管理等安全確保のための組織の充実
—	3回	3回	・コンプライアンスの確立に向けた取組の実施等
2回	2回	2回	・指定管理者制度導入後の連携・調整に係る体制づくり
63.5%	—	65.0%	・「明るく(A)、楽しく(T)、前向きに(M)、そして自身の健康と家族を大切に」をモットーに明るく風通しのよい職場づくりの推進 ・ワーク・ライフ・マネジメントシート等を活用した対話の実施
—	3回	3回	・職員間のコミュニケーションを重視して思いを伝えあい、共有し、共に実践する組織づくり
57.3%	—	60.0%	・研究・研修環境の整備・充実、研究発表の推進(専門分野での資格取得のための支援、研修体系の整備、研修機会の確保と活かせる環境の整備、研究研修費の確保、等)
87.7%	87.2%	87.0%	・医療安全研修会等の開催

平成25年度 こころの医療センター院長マネジメントシート(最終実績)

病院名	こころの医療センター			
ビジョン	県民のみなさんのより良いこころの健康をめざし、三重県の精神科医療をリードします。			
経営方針	精神科急性期医療の拠点病院として整備充実し、患者様や地域関係機関等からのニーズに対応すべく、精神科専門医療を充実する			
区分	経営シナリオ	目 標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標
顧客の 視点		◎重点取組事項	病院機能の再編・推進	訪問看護件数
		開かれた病院経営	ステークホルダーとの協働	地域精神保健医療体制検討会設置
		早期社会復帰の推進	新患者の寛解率の向上	新患者の寛解率
		社会ニーズに応じる精神科専門医療の提供	精神科救急・急性期医療の推進	救急患者受入患者数
			地域生活支援体制の充実	長期入院患者(5年超)の退院数 長期入院患者の多職種チーム医療
			地域医療機関との連携	紹介率 医療機関訪問件数
			精神科早期介入の推進 県民ニーズの高い精神科医療の取組	早期介入対応件数 こころしつとこセミナー一件数
財務の 視点		◎重点取組事項	臨床・経営指標に基づいた病院運営の確立	臨床・経営指標の追加・充実
		医業収支改善	医業収支比率の改善	医業収支比率 経常収支比率 職員給与費比率 病床稼働率 アルコール病棟一日平均患者数 認知症病棟一日平均患者数 外来一日平均患者数
内部プ ロセス の視点		◎重点取組事項	切れ目のない病院機能体制の確立	重度療養患者医療体制検討
		救急急性期治療病院への体制整備	常時急性期患者受入体制の確立	措置鑑定対応件数
		精神科倫理に則った病院運営	医療安全感染管理の徹底	医療安全研修会参加率向上
学習と 成長の 視点		◎重点取組事項	人材育成の充実取組	精神科医療倫理委員会設置
		専門性の向上	専門能力を身につけた職員の増加	人材育成研修開催数
		三重県の精神科をリードする取組	精神科医療スタッフの育成	看護実習等受け入れ数

ことによって、県民から愛され信頼される病院づくりを目指します。

H23 実績値	H24 実績値	H25 実績値	アクションプラン	実績評価	次年度への課題
2,948件	2,823件	3,751件	・アウトリーチサービス、日中活動支援の充実 ・外来棟の整備	<ul style="list-style-type: none"> 訪問看護実施体制の充実と新たな外来棟を整備した。 地域精神保健医療体制検討会の設置に向け、保健所等関係機関と調整を図ったが設置には至らなかった。 寛解率は、前年と比較して率が改善した。 救急患者の受け入れは、年間200件を達成した。 長期入院患者の退院目標は、達成できなかったものの、診療報酬上の基準を上回る地域移行を進めることができた。 紹介率は、昨年度より少し上がった。医療機関訪問数は、目標件数200件を達成した。 早期介入件数は、件数が増加し、目標を達成した。 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問看護のアウトリーチサービスや、作業療法、デイケアといった日中活動支援に対するニーズに対応するための体制整備等を引き続き進めていく。 地域精神保健医療体制検討会については、他地域の動向を注視しつつ、早期の設置に向けて関係機関と調整を進める。 企業等からのセミナー実施に対するニーズは、高まってくると考えられ、引き続きセミナーへの講師派遣について積極的に行うとともに、広報の方法についても検討していく必要がある。
—	—	—	・地域精神保健医療体制検討会(仮称)の設置		
59.2%	67.5%	69.0%	・早期、急性期医療の充実。地域生活支援体制の推進		
219人 ／年	202人 ／年	221人 ／年	・精神科救急受け入れ態勢の確保		
6件 6件	6件 6件	7件 6件	・地域移行支援事業(退院促進事業)の活用 ・リハビリパスの院内普及		
49.1% 150件	48.9% 200件	50.4% 200件	・地域医療機関への訪問 ・地域連携ミーティングの開催		
158件 26件	157件 19件	206件 18件	・早期介入拠点(YMSC/MIE・YAC)の充実、ケースマネジメント体制の確立 ・精神科医療取組の広報・啓発等		
—	一部 見直し	一部 見直し	・臨床・経営指標の追加等、データ分析	<ul style="list-style-type: none"> 診療体制の一時的な縮小から入院患者数が減少したことにより、財務項目について前年度より悪化したものの、経常収支は黒字を確保した。 外来一日平均患者数は、診療体制が一時的に縮小したことにより、前年度実績から若干下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たに整備した外来棟の有効活用、平成26年度の診療報酬改定への的確な対応など、経営の健全化を図っていく必要がある。 病床稼働率の向上を図る必要がある。 臨床・経営指標の見直しを引き続き進め、指標の追加を行っていく。
81.6%	78.7%	73.1%	・診療報酬制度改定に対応した、精神科専門治療の充実		
108.2%	103.9%	100.1%	・精神科特定入院料の算定		
80.7%	84.4%	89.4%	・収支改善に向けた病院機能の検討		
82.1%	82.7%	85.0%	・診療報酬検討委員会の開催 ・病棟機能の明確化と病棟間の連携		
28.3人 40.3人 257.2人	28.5人 41.2人 256.6人	35.6人 36.7人 253.0人	・アルコール治療病棟機能の見直し(病院機能再編取組) ・アルコールデイケアプログラムの充実 ・認知症病棟の運営在り方検討(国県の動向、患者実態を踏まえて)		
—	—	検討	・重度療養患者に対する治療の体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> 重度療養患者に対する治療の充実を図るため、先進地調査を実施するなど体制構築に向けて取り組んだ。 措置鑑定要請に対して、100%受け入れを行っている。 医療安全研修を複数回開催し、研修参加機会の供与に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 重度療養の治療体制や他病院からの受入体制について、引き続き検討していく必要がある。 引き続き、医療安全意識の醸成のため、研修機会を供与していく。
32件	29件	47件	・県障がい福祉課・保健所等との連携、院内救急体制整備		
83.6%	85.2%	82.4%	・医療安全管理指針の見直し		
—	—	9回	・倫理委員会の再構築 ・職員表彰制度の継続実施	<ul style="list-style-type: none"> 医療倫理委員会を開催し、必要となる職員研修の内容検討などを行った。 院内全職員を対象とした研修を開催し、知識向上を図った。 精神科病院、看護学校等からの依頼に対応し実習生等の受け入れを行ったが、1病棟休棟の影響により、昨年度を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 院内全体の医療倫理の向上に向けた取組を推進していく必要がある。 人材育成研修の実施、県立看護大学との連携協定に基づく取組など、精神科医療スタッフの一層のスキル向上を図っていく必要がある。 要望に応じ、医師、看護師、コメディカル職種の実習生等の受け入れを行う。
1回	1回	1回	・精神科医療スタッフのスキル向上		
2,321人	2,452人	2,067人	・院内受け入れ体制の整備 ・研修プログラムの見直し、充実 ・看護大学との連携による臨床能力の向上		

平成26年度 こころの医療センター院長マネジメントシート

病院名	こころの医療センター		
ビジョン	県民のみなさんのより良いこころの健康をめざし、三重県の精神科医療をリードします。		
経営方針	精神科急性期医療の拠点病院として整備充実し、患者様や地域関係機関等からのニーズに対応すべく、精		
区分	経営シナリオ	目 標	主な成果 (重要成功要因)
顧客の 視点		◎重点取組事項	病院機能の再編・推進
		開かれた病院経営	ステークホルダーとの協働
財務の 視点		◎重点取組事項	臨床・経営指標に基づいた病院運営の確立
		医業収支改善	医業収支比率の改善
内部プ ロセス の視点		◎重点取組事項	切れ目のない病院機能体制の確立
		救急急性期治療病院への体制整備	常時急性期患者受入体制の確立
学習と 成長の 視点		◎重点取組事項	人材育成の充実取組
		専門性の向上	専門能力を身につけた職員の増加
		三重県の精神科をリードする取組	精神科医療スタッフの育成
		風とおしの良い職場づくり	職員満足度の向上

精神科専門医療を充実することによって、県民から愛され信頼される病院づくりを目指します。

業績評価指標	H24 実績値	H25 実績値	H26 目標値	アクションプラン
訪問看護件数	2,823件	3,751件	4,550件	・アウトリーチサービス、日中活動支援の充実
地域精神保健医療体制検討会設置	-	-	設置	・地域精神保健医療体制検討会(仮称)の設置
受診希望率 病院推薦率	79.9% 73.1%	81.1% 71.3%	81.5% 83.5%	患者等ニーズの把握
新患者の寛解率	67.5%	69.0%	60.0%	・早期、急性期医療の充実。地域生活支援体制の推進
救急患者受入患者数	202人 ／年	221人 ／年	220人 ／年	・精神科救急受け入れ態勢の確保
長期入院患者(5年超)の退院数 長期入院患者の多職種チーム医療	6件 6件	7件 6件	8件 10件	・地域移行支援事業(退院促進事業)の活用 ・リハビリパスの院内普及
紹介率 医療機関訪問件数	48.9% 200件	50.4% 200件	55% 200件	・地域医療機関への訪問 ・地域連携ミーティングの開催
早期介入対応件数 こころしっとこセミナー件数	157件 19件	206件 18件	195件 23件	・早期介入拠点(YMSC/MIE・YAC)の充実、ケースマネジメント体制の確立 ・精神科医療取組の広報・啓発等
臨床・経営指標の追加・充実	一部 見直し	一部 見直し	見直し	・臨床・経営指標の追加等、データ分析
医業収支比率	78.7%	73.1%	78.5%	・診療報酬制度改定に対応した、精神科専門治療の充実 ・精神科特定入院料の算定
経常収支比率	103.9%	100.1%	105.8%	・収支改善に向けた病院機能の検討
職員給与費比率	84.4%	89.4%	85.1%	
病床稼働率	82.7%	85.0%	90.8%	・病棟機能の明確化と病棟間の連携
アルコール病棟一日平均患者数 認知症病棟一日平均患者数 外来一日平均患者数	28.5人 41.2人 256.6人	35.6人 36.7人 253.0人	38.0人 44.0人 270.0人	・飲酒運転違反者に対する診察 ・認知症相談、啓発研修の実施 ・増築外来棟の有効活用
重度療養患者医療体制検討	-	検討	検討	・重度療養患者に対する治療の体制づくり
措置鑑定対応件数	29件	47件	30件	・県障がい福祉課・保健所等との連携、院内救急体制整備
医療安全研修会参加率向上	85.2%	82.4%	83.0%	・医療安全研修の複数回実施
精神科医療倫理研修開催	-	1回	1回	・職員の倫理意識向上のための研修の実施 ・職員表彰制度の継続実施
人材育成研修開催数	1回	1回	1回	・職員のスキルアップのための体系的な院内研修の実施
看護実習等受け入れ数	2,452人	2,067人	2,200人	・院内受け入れ体制の整備 ・研修プログラムの見直し、充実 ・看護大学との連携による臨床能力の向上
職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合	61.3%	-	62%	・ワーク・ライフ・マネジメントの推進

病院名	一志病院				
ビジョン	家庭医を中心とした地域医療、地域医療を担う人材の教育、医療や教育に関する研究に取り組むことにより、全国の医療過疎を解決する病院のモデル				
経営方針	家庭医療を中心とした医療を実践します。 家庭医が推進者となり、地域に最適な包括的で全人的な医療体制を住民の皆さんとともに創ります。 研修医や医学生等に対する実地教育を通じて、地域医療の魅力や意義を伝えます。 家庭医療、地域医療、医療教育に関する実践的かつ先進的な研究を行います。 医療サービスを継続的に提供できるよう、経営の健全化に努めます。				
区分	経営シナリオ	目 標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	
顧客の視点	<p>全国的な医療過疎を解決する病院のモデル</p> <p>県内への医師等の定着</p> <p>全人的な医療サービスの提供</p> <p>顧客満足度の高い医療の実践</p>	全人的な医療サービスの提供	かかりつけ患者の増加	家庭医療等外来受診者数(予防医療含む)	
財務の視点		<p>経営の健全化</p>	入院患者の増加	一般病棟入院患者数【病床稼働率】	
			顧客満足度の高い医療の実践	患者及び家族の満足度向上	患者アンケート「親しい友人や家族が病気になった時、当院を推薦するか」項目の推薦率
			経営の健全化	収支の改善 収益の確保 費用の縮減	経常収支比率 診療報酬検討会開催回数 材料費、経費対医業収益比率
内部プロセスの視点	<p>地域に最適な医療体制づくり</p> <p>地域医療</p> <ul style="list-style-type: none"> 包括的なケア 多職種連携 住民参画型 <p>教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域医療を担う人材の教育 <p>家庭医</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭医療、地域医療、医療教育に関する研究 <p>研究</p>	地域に最適な医療体制の構築	関係機関・地域住民との連携強化 在宅療養の充実	地域に最適な医療の体制づくり参加機関数(者) 訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーション延べ患者数	
		家庭医を中心とした地域医療	救急医療体制の確立 予防医療の実践	救急患者受入件数(救急車搬送患者を含む) 住民健診・がん検診受検者数	
		地域医療を担う人材の教育	研修医・医学生の受入れ体制の充実 看護師等育成の支援	初期研修医・医学生受入実人数 看護実習等受入率	
		院内体制の整備	医療情報システムの導入	システム導入の検討	
			休止中施設の活用	休止中施設の活用方法の検討	
学習と成長の視点	<p>専門能力の向上</p> <p>実践的かつ先進的な研究の実施</p>	専門能力の向上	医療従事者の能力向上	学会、研修、カンファレンス等の参加率	
		実践的かつ先進的な研究の実施	家庭医療等に関する研究の実施	学会発表・論文発表件数	

ルになることをめざします。

H23 実績値	H24 実績値	H25 実績値	アクションプラン	実績評価	次年度への課題
101人/日	105人/日	105.4人/日	・家庭医を中心とした外来診療体制の充実を図る。 ・予防医療やリハビリテーション、健康相談などを含む全人的な医療サービスを安定的に提供する。	・予防医療を除く内科患者数が微減、予防医療受診者が微増した結果、全体では前年度とほぼ同数となった。	・地域住民の幅広いニーズに対応できる医療を推進していく必要がある。
32.9人 【71.5%】	27.2人 【59.2%】	35.7人 【77.6%】	・診療所、福祉施設、他の急性期病院等との連携を強化し、紹介患者数の増加を図る。	・家庭医療の取組を始めた平成19年度以降で最多の患者数となった。	・地域住民の幅広いニーズに対応できる医療を推進していく必要がある。 ・関係機関との連携を強化していく必要がある。
81.8%	81.5%	82.7%	・患者アンケートを通じ患者様のニーズを把握し、サービス改善に取り組む。 ・接遇研修を実施し、職員の接客能力の向上を図る。 ・ワーキング活動等を通じた業務改善に取り組む。	・前年、前々年度に比べ、患者様の満足度が向上した。	・職員の接客能力の向上や、療養環境の整備、待ち時間の短縮等に取り組んでいく必要がある。
103.0%	91.5%	102.8%	・入院、外来患者数の増により収益増を図る。 ・在宅療養支援の取り組みにより収益増を図る。 ・診療報酬の減点対策や新規・上位施設基準の取得により収益増を図る。 ・材料費、経費等の節減に努めることにより費用減を図る。 ・業務改善に取り組むことにより費用減を図る。	・入院患者数が大幅に増加した。 ・8月から院外処方を本格推進したことから、外来収益及び薬品費が減少した。 ・入院患者数の増加を主因とした収益増の結果、経常収支は黒字となった。	・地域における医療ニーズを踏まえ、必要とされる医療サービスを継続的に提供するとともに、医業収支の改善、経常収支の継続的な黒字化に取り組んでいく必要がある。
7回	2回	12回	・材料費、経費等の節減に努めることにより費用減を図る。 ・業務改善に取り組むことにより費用減を図る。		
48.4%	54.2%	48.2%			
-	9機関(者)	11機関(者)	・地域の関係機関で構成する地域ケア会議等へ参加し、連携を図る。 ・医師等が地域の病院等関係機関を訪問し、連携を図る。	・「多職種連携ワークショップ」等の開催を通じ、保健・医療・福祉機関等と連携を深めた。	・関係機関との連携を更に深めるとともに、地域住民との連携に取り組んでいく必要がある。
2,411人	3,439人	3,219人	・関係医療機関、保健・福祉機関と連携し、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーションの件数増を図る。	・訪問診療、看護、リハビリテーションに加え、10月から薬剤管理指導を開始した。	・地域住民のニーズに対応できるように、在宅療養支援の実施体制を維持していく必要がある。
946人	1,036人	1,065人	・宿日直体制を維持し救急患者を受け入れる。 ・救急隊との連携を図る。	・24時間365日体制を維持した。 ・合同勉強会等を通じて消防機関との連携を強化した。	・宿日直体制を維持し、消防機関との連携強化に取り組む必要がある。
1,131人	1,215人	1,196人	・住民健診、がん検診等をPRするとともに積極的に受け入れる。 ・健康教室等を開催し、健康管理に対する意識啓発を図る。	・住民健診は受診者数が減少した。 ・がん検診は実施期間延長等により増加した。	・予防医療の必要性を地域住民に周知していく必要がある。 ・住民健診等に対応できる診療体制を維持していく必要がある。
43人	39人	48人	・指導医による人材育成体制を強化し、研修医、医学生を積極的に受け入れる。	・初期研修医12人、医学生36人を受け入れた。 ・受入依頼病院数が前年度から2か所増加した。(3→5か所)	・当院での研修を希望する研修医等を積極的に受け入れられる体制を維持していく必要がある。
100%	100%	100%	・看護師等育成に取り組む機関等と連携し、院内実習等を通じ人材育成の支援を行う。	・三重大学2人、白山高校22人、1日看護体験2人を受け入れた。 ・先方からの依頼を100%受け入れた。	・当院での実習を希望する機関からの要望に対応できる体制を維持していく必要がある。
-	-	検討	・医事電算システム更新に向け、システム内容や導入工程について、院内の合意形成を図る。	・検討会を立ち上げ、仕様の絞込み等を開始した。	・システム内容や導入工程について検討、早期に院内合意を形成し、導入する必要がある。
-	-	未着手	・休床している療養病棟の活用の検討を始めることについて、院内の合意形成を図る。	・院内で、意見交換を進めるも、具体的な検討に至らなかった。	・施設の活用方法の検討に取り組む必要がある。
100%	100%	100%	・多職種が参加するカンファレンス等を開催する。 ・学会、研修等に参加しやすい職場環境を整える。	・全職員が学会、研修、カンファレンスに一度は参加した。	・学会、研修、カンファレンス等に参加しやすい職場環境づくりに取り組む必要がある。
-	4件	20件	・カンファレンス等を通じ職員の研究に取り組む意欲を醸成する。 ・研究を行うための職場環境を整える。	・学会等での発表を8件、医学雑誌等での論文発表を12件行った。	・研究に取り組むやすい職場環境づくり、研究意欲の醸成に努める必要がある。

病院名	一志病院			
ビジョン	家庭医を中心とした地域医療、地域医療を担う人材の教育、医療や教育に関する研究に取り組むことにより、全国の			
経営方針	家庭医療を中心とした医療を実践します。 家庭医が推進者となり、地域に最適な包括的で全人的な医療体制を住民の皆さんとともに創ります。 研修医や医学生等に対する実地教育を通じて、地域医療の魅力や意義を伝えます。 家庭医療、地域医療、医療教育に関する実践的かつ先進的な研究を行います。 医療サービスを継続的に提供できるよう、経営の健全化に努めます。			
区分	経営シナリオ	目 標	主な成果 (重要成功要因)	
顧客の視点		全人的な医療サービスの提供	かかりつけ患者の増加 入院患者の増加	
財務の視点		顧客満足度の高い医療の実践	患者及び家族の満足度向上	
内部プロセスの視点		経営の健全化	経営の健全化	収支の改善 収益の確保 費用の縮減
		<p><u>地域に最適な医療体制づくり</u></p> <p>地域医療</p> <ul style="list-style-type: none"> 包括的なケア 多職種連携 住民参画型 <p>教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域医療を担う人材の教育 <p>家庭医</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭医療、地域医療、医療教育に関する研究 <p>研究</p>	地域に最適な医療体制の構築	関係機関・地域住民との連携強化
			家庭医を中心とした地域医療	在宅療養の充実 救急医療体制の確立 予防医療の実践
学習と成長の視点	地域医療を担う人材の教育	地域医療を担う人材の教育	研修医・医学生の受入れ体制の充実 看護師等育成の支援	
	院内体制の整備	院内体制の整備	医療情報システムの導入 休止中施設の活用	
	<p>専門能力の向上 ↔ 実践的かつ先進的な研究の実施</p> <p>風とおしの良い職場づくり</p>	専門能力の向上	医療従事者の能力向上	
		実践的かつ先進的な研究の実施	家庭医療等に関する研究の実施	
		風とおしの良い職場づくり	職員満足度の向上	

医療過疎を解決する病院のモデルになることをめざします。

業績評価指標	H24 実績値	H25 実績値	H26 目標値	アクションプラン
家庭医療等外来受診者数(予防医療含む)	105人/日	105.4人/日	109人/日	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭医を中心とした外来診療体制の充実を図る。 ・予防医療やリハビリテーション、健康相談などを含む全人的な医療サービスを安定的に提供する。 ・メッセージャー配置やカルテ運用方法の見直しなどの業務効率化に着手する。
一般病棟入院患者数【病床稼働率】	27.2人【59.2%】	35.7人【77.6%】	34.0人【73.9%】	<ul style="list-style-type: none"> ・診療所、福祉施設、他の急性期病院等との連携を強化し、紹介患者数の増加を図る。
患者アンケート「親しい友人や家族が病気になる時、当院を推薦するか」項目の推薦率	81.5%	82.7%	84.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・患者様アンケートを通じ患者様のニーズを把握し、サービス改善に取り組む。
患者アンケート「今後も当院を受診しようと思うか」項目の受診率	96.0%	94.9%	96.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇研修を実施し、職員の接遇能力の向上を図る。 ・ワーキング活動等を通じた業務改善に取り組む。
経常収支比率	91.5%	102.8%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・入院、外来患者数の増により収益増を図る。
診療報酬検討会開催回数	2回	12回	12回	<ul style="list-style-type: none"> ・予防医療受診者の増により収益増を図る。 ・請求漏れ対策や減点対策等に取り組み、収益増を図る。 ・材料費、経費等の節減に努めることにより費用減を図る。 ・業務改善に取り組むことにより費用減を図る。
材料費、経費対医業収益比率	54.2%	48.2%	50.4%	
地域に最適な医療の体制づくり参加機関数(者)	9機関(者)	11機関(者)	13機関(者)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療に関する協議会等へ参加し、連携を図る。 ・医師等が地域の病院等関係機関を訪問し、連携を図る。
訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーション延べ患者数	3,439人	3,219人	3,240人	<ul style="list-style-type: none"> ・関係医療機関、保健・福祉機関と連携し、訪問医療、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導の単価増・件数増等を図る。
救急患者受入件数(救急車搬送患者を含む)	1,036人	1,065人	1,000人	<ul style="list-style-type: none"> ・宿日直体制を維持し救急患者を受け入れる。 ・引き続き救急隊等、消防機関との連携強化に努める。
住民健診・がん検診受検者数	1,215人	1,196人	1,180人	<ul style="list-style-type: none"> ・住民健診、がん検診等をPRするとともに積極的に受け入れる。 ・健康教室等を開催し、健康管理に対する意識啓発を図る。
初期研修医・医学生受入実人数	39人	48人	49人	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医による人材育成体制を強化し、研修医、医学生を積極的に受け入れる。
看護実習等受入率	100%	100%	100%	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師等育成に取り組む機関等と連携し、院内実習等を通じ人材育成の支援を行う。
システム導入の検討	-	検討	導入	<ul style="list-style-type: none"> ・早期に院内合意を形成し、年度中にシステムを導入する。
休止中施設の活用方法の検討	-	未着手	検討開始	<ul style="list-style-type: none"> ・休床している療養病棟の活用方法の検討を開始し、院内の合意形成を図る。
学会、研修、カンファレンス等の参加率	100%	100%	100%	<ul style="list-style-type: none"> ・学会、研修等に参加しやすい職場環境を整える。 ・多職種が参加するカンファレンス等を開催する。
学会発表・論文発表件数	4件	20件	14件	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンス等を通じ職員の研究に取り組む意欲を醸成する。 ・研究を行うための職場環境を整える。
職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合	67%	-	68%	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーク・ライフ・マネジメントを推進する。